

分担研究報告書  
膠原病の皮疹形成機序における AHR の役割に関する研究

研究分担者 冬野洋子 九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター 助教

研究要旨

膠原病の皮疹形成機序に、AHR が関与している可能性が示唆された。

A. 研究目的

膠原病の皮疹形成機序については、未解明な点が多い。AHR、NRF2 経路や EGFR 経路には一部相互作用があることが既知であり、膠原病の皮疹形成における、AHR と、NRF2、EGFR 経路の関わりと、抗酸化物質が治療薬となる可能性について、検討する。

B. 研究方法

SLE の皮膚生検の病理組織を免疫染色し、CYP1A1、NRF2、H01、pEGFR の免疫染色を行った。

(倫理面への配慮)

ヒト検体を用いた実験は後ろ向きの観察研究として、九州大学の倫理審査委員会にて承認されている。遺伝子組み換え実験については、研究の進展により、必要になれば、文部科学省のガイドライン、九州大学遺伝子組換え実験指針に則り、遺伝子組換え実験審査委員会の承認を得た後に、適切に施行する。臨床研究ならびに遺伝子組み換え実験を行うための講習等を受講済みであり、学内委員会での研究実施の承認を得ている。

C. 研究結果

免疫染色で、SLE 患者群の表皮細胞で CYP1A1 の低下が確認され、AHR 活性化が低下していた。また、NRF2 の発現も減少していた。

D. 考察

膠原病の皮疹の病態形成に、AHR-NRF2 経路のクロストークが関与している可能性がある。

E. 結論

AHR の活性化による膠原病皮疹への影響について、さらなる検討が必要である。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし